

向陽高等学校

実施日時	令和4年 3月23日(水)
参加者	生徒275名、教職員16名、和歌山市危機管理部総合防災課10名 自衛隊和歌山地方協力本部10名 計311名
実施内容	炊き出し・配給訓練、防災グッズ製作、パーティション設置訓練、 マンホールトイレ設置見学、VR体験、救急法・搬送法・AED操作

ねらい

- 1 高校生が災害時に主体的に行動するための知識・判断力を身につけさせる。
- 2 「自助・共助・公助」を実践し、地域社会に貢献できる生徒を育成する。

主なプログラム

- 1 炊き出し・配給訓練
- 2 防災グッズ製作
- 3 パーティション設置訓練
- 4 マンホールトイレ設置見学
- 5 VR体験
- 6 救急法・搬送法・AED操作

概要

- 1 非常食「 α 米」の作り方を確認する。
(コロナ対策のため、自宅で試食させる。)
- 2 教室で防災グッズ(マイトイレ・レインコート、スリッパ)を各自で製作する。
- 3 体育館でクラス単位で組み立て、住居スペースを体験し、片付ける。
- 4 校内のマンホールトイレの設置方法を見学し、和歌山市職員から説明を受ける。
- 5 和歌山市消防局のVR体験車で地震・津波のVR体験を行う。
- 6 体育館で自衛隊員が救急法・搬送法・AED操作の実演を行い、生徒も実践する。

成果と課題

【成果】 例年は地域住民に参加してもらって、避難所運営訓練を行っていたが、コロナ感染拡大以降実施できていない。今回は、生徒が密にならないように、複数のプログラムを用意して一定時間で巡回する方式をとった。そのため、生徒は興味関心を持ちながら集中して取り組んでいた。感染状況が心配されたが、外部機関の協力を得ることができ、最新のVRを体験したり、自衛隊のきびきびとした実演を見たりして生徒にとって大きな刺激になった。

【課題】 本校では、中高一貫の環境科学科の生徒に対して中学3年次に「防災リーダー養成講座」を行い、高校2年ではファシリテーターとして普通科の生徒が「ミニ避難所運営ゲーム」を行う際の進行役をさせている。教員が指示するのではなくできるだけ生徒同士の協力で問題解決させたいという目標を持っている。その最大の実践の場が3月の「防災スクール」であり、地域住民に対して生徒たちがいかに自主的に行動できるかを試す場でもある。しかし、コロナの影響で開催できず、今回のようにアトラクション的なプログラムの体験になってしまうことは否めない。

